

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	歯科診療所管理運営費				
担 当 課 係 名	保健 課		- 係	作成者	赤坂宏秀
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち			総合計画の ページ
	基本計画	地域医療、救急医療体制の整備			
	主要施策	診療所の管理運営			49
予 算 費 目	一般 会計	4 款 衛生費	1 項 保健衛生費	5 目	診療所費
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	仙北市歯科診療所条例				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	地域住民の歯科衛生の向上及び増進に努める。
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	地域住民の歯の健康管理及び療養の給付を行う。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	地域住民の歯科疾患者の治療、日常生活における歯口清掃、義歯の機能及びその予防管理等を指導する。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績
効果	活動指標	患者数	目標	人	9,807	9,281	8,652
			実績	人	8,575	8,032	8,159
			達成度	%	87.4%	86.5%	94.3%
	成果指標	診療収入	目標	千円	34,176	36,021	34,791
			実績	千円	38,109	35,099	34,776
			達成度	%	111.5%	97.4%	100.0%
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)			16,535	16,075	15,292	
	人 件 費 (B)		—	31,412	32,284	31,700	
	職 員 数		—	4.00	4.00	4.00	
	職 員 平 均 人 件 費		—	7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト			47,947	48,359	46,992	
	財源内訳	国 庫 支 出 金					
		県 支 出 金					
		地 方 債					
		そ の 他			38,109	35,099	34,776
		一 般 財 源			9,838	13,260	12,216
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	5,591	6,021	5,760
市民1人当たりのコスト(円)		—	1,504	1,538	1,514		

【事務事業の今までの成果】

社会保険の主旨に基づく模範的な診療を行い、地域住民の歯科衛生の向上及び増進に寄与している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	特になし
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	患者数は、前年度に比し少し上回っており、継続の必要性があると思われる。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
C 2	A 現状のまま継続（実施）	地域の医療体制の中で広く議論する必要があると思われる。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

市立田沢湖病院と併設していることから、地域住民の利便性は図られているものと思われる。
診療時間等を考慮しながら地域住民の歯の健康管理に努めていく。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
C 2	地域医療を担う拠点であり、市立病院等改革における検討を踏まえつつ継続すべきと考えます。

一次評価診断図

